

水彩画教室 「野島崎灯台／千葉県南房総市白浜町」

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka

館山からさらに南へ車を走らせると やがて視界が大きく開け 太平洋に突き出した野島崎に着きます。岬には黒潮の湿った風が絶えず吹き抜け 岩礁に碎ける波の音が静かに続いていました。白い野島崎灯台は 強い日差しを受けながら岬の上に立ち 南房総の海を長い年月見守ってきたことを感じさせます。遊歩道を歩くと 足元には波に削られた岩場が広がり 海の青さが驚くほど近く感じられます。岬には観光地らしい賑わいもありますが 一歩海辺に立つと 水平線だけが広がる静かな時間が流れていました。空には海風に押される雲がゆっくりと流れ 灯台の脇には現代的な電波塔も見えています。古い航路標識と現代の通信設備が並ぶ風景に この岬が今も海と深く結びついていることを感じました。関東最南端の岬という言葉には観光地の印象がありますが 実際に立ってみると そこには「海に囲まれた日本」の端に来たような開放感がありました。

初灯 1870年(明治3年)1月22日／単閃白光 15秒に1閃光 (FlW 15s)



これが完成した絵です



1、雲(積雲)は白のパステルで その後薄い黒で影をつけます



2、遠い雲は地平線(水平線)に近く 薄く描きます



3、主題の灯台は「左側を影に」と意識して立体感を出します



4、電波塔も岬の突端らしさを表現できます



5、南国らしい樹木で 南房総らしさを表現します



6、岬を形成する岩石と防波堤も 左側に影をつけます